2024/9/11 開催　いけんひろば

～こども・若者の居場所づくりの取組について、どんな伝え方をすれば良いと思いますか？～

いけんのまとめ　オンライン回

【オンライン】１班（小学生４名）.....2

【オンライン】２班（高校生世代４名）.....10

【オンライン】３班（大学生世代４名、社会人世代１名）.....14

【オンライン】４班（社会人世代５名）.....18

参加者アンケートで貰った意見.....23

※小学生が参加した１班の文章には、ふりがなをつけています。

（注）本資料は、いけんひろば参加者個人のご意見を逐語的に記載したものです。本資料の記載内容は、政府としての見解や評価ではありません。

なお、発言者個人の特定や、特定の個人や団体等への直接的な批判につながる恐れがある発言については、発言の趣旨を改変しない形で修正しています。

【オンライン】１班（小学生４名）

１．居場所づくりの取組について

A）あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

- 聞いてもらえているが実現はしていないと思う。今年転校したが環境に慣れなかったので学校の相談室に言って色々と聞いてもらったりした。そこで「ここがちょっと…」と相談したことがあるが、相談してもあまり変わらなかった。学校内にある公共の施設だからなのかもしれない。
- 実感があるかというと半分くらい。意見を聞いてもらえる場が身近にない。
- 実感はある。何となく聞いてもらえている感じがする。
- 実感はある。学校などで聞いてもらえている気がする。

○自分が何かを相談したり、気持ちを聞いてもらいたいと思った時にすぐに言えたりする場所はあるか。

- インターネット、SNS など。
- 遊んでいる時に友達に相談する。
- 言う場所はない。

○大人に相談することはあるか。

- 言う場所がないし、大人に相談しても「こどもだけで変えられるわけない」と言われてしまう。
- 自分の学校の先生は聞いてくれるほうだと思う。休み時間など、みんなが遊びに行っていて人が少ない時などは先生と話しやすい。

- 学校の先生が聞いてくれる。
- 保健室の先生がよく話を聞いてくれる。

B）「こどもの居場所づくりに関する指針」を知っていましたか。

- 聞いたことがある。こども家庭庁のイベントに参加した時に聞いた。
- 初めて聞いた。
- 多分初めて聞いた。

C）どんな居場所がつくられると嬉しいですか。

〇居場所だと感じるところはあるか。それは自分にとってどのような場所か。

- 家にいる時間、習い事をしている時間は居心地がいい。家族と一緒にいる時も居心地がいいと感じる。安心できる。
- SNS が居場所だと感じる。SNS では仮想の自分でいることができる。中身が誰なのか特定されることもないし、自分が不満に思っていることや誰かへの文句なども何でも言いやすい。
- 学校が居場所だと感じる。学校の授業中に先生が変な話をすることがあって面白い。放課後はみんなでサッカーしたり得意なことで遊んだりすることができて楽しい。
- いけんひろばが居場所だと感じる。言いたいことを言うことができて楽しい。放課後に友だちとオンラインでゲーム（マインクラフト）をすることがあるが、その時も「居場所がある」と感じる。

〇どんな居場所があったら嬉しいか。

- ゲームを持ちより、知らない人とでも一緒に楽しくワイワイ遊べる場所があれば最高だと思う。
- 何を言っても否定されない場所。また、いけんひろばのように「この場所で聞いたことを他の人には言わない」と約束されている場所。
- いけんひろば。誰にも言えないことがここで言えて、心が落ち着く。普段なかなか言えないことも話せる。
- 安心できて快適な場所。遊ぶ場所があると安心できる。
- 遊ぶ場所ではサッカーをしたい。
- 遊ぶ場所ではゲームをしたい。

〇誰に話を聞いて欲しいか。

- 同じクラスの友達に話を聞いて欲しい。
- 放課後にいつも遊んでいる友達。同世代がいい。一番一緒にいるから信用ができる。
- SNS など誰もいないところで自分の気持ちを匿名で吐き出すのも良いと思う。

〇児童館は近くにあるのか。

- 児童館はあるが行かない。家で友達と一緒に遊ぶほうが楽しい。
- 地域の行事を開催する施設はある。
- 公民館くらいしかない。

D）こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、大人やこども・若者は何に気を付けると良いと思いますか。

- 大人もこどもが信用しあうこと。
- 行動力。大人がこどもの意見を受け止めてちゃんと行動してくれると信用につながる。

〇こどもが行動できるとよいことはあるか。

- 大人のことを手伝う。
- 嘘をつかない。
- お互いを理解すること。
    - アイスブレイクなどをやって互いに自分のことを発信しあうと仲良くなれると思う。

〇大人と距離を感じるか？

- 感じない。
- そこまで感じない。学校で距離が近いから。
- 話しかけにくい先生もいる。
- 担任の先生にさえ話しかけにくい。

２．広報資料の案を見て

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

【解説動画について】

〇知りたいことは分かったか。

- 分かった。
- サッカー、スポーツのことが出ていたが、それについてもう少し動画があったりするといいと思った。
- 要点だけをまとめた動画（長さは同じくらい）を作ったらもっと伝わりやすいと思う。

〇印象に残ったことや新しく知ったことはあるか？

- 音声が気になって内容があまり入ってこなかった。小学生の声などを使うと伝わりやすいと思う。
- 今でも短いとは思うが、もうちょっと短いほうがこどもにとっては良い。
- もっと短い版も作ったほうが良いと思う。
- 有名な YouTuber（ヒカキンなど）が出てくるといいと思った。内容はもっと具体的にしたほうが良いと思う。長すぎても良くないので 10分くらいに収まると良い。

〇なんのための動画か分かったか。

- 居場所の作り方についての動画。
- 居場所が見つからない人のための動画。

〇どういう風に配信するとみんなの目に留まりやすいか。

- テレビ CM などにするのが良いかも。
- YouTube の広告やテレビの CM。
- YouTube などに広告として出せば知ってもらいやすい。YouTube はよく見ている。自分が好きなゲームに関する動画を 1 回検索したら、それに関する動画が沢山出てくるようになる。
- YouTube では、好きなゲームや好きな YouTuber を見たりする。

【パンフレット（１ページのもの）について】

〇イラストはどう思うか。

- 吹き出しの「ここに文字が入ります」の部分について、もうちょっと文字を大きくしたほうが読みやすいと思う。
- イラストの中の「こども食堂」の字が小さい。

〇チラシやポスターとして使う場合、どのようにすれば皆の目にとまると思うか。

- 学校に貼る。
- 学校のパンフレット置き場に置く。
- 裏表を横につなげて大きくして貼る。
- 新聞の号外のように街中や学校の前で配る。
- 大きい字で「見てね」と書く。
    - 主張が強すぎると逆に見なくなる可能性もある。

〇普段チラシなどを見るか。

- あまり見ない。
- 学校で配られたものしか見ない。
- 学校で配られたものはちょっと見る。

〇学校で配られるチラシは紙か。

- 紙。
- タブレットで配られたほうが見やすいかもしれない。

【パンフレット（20 ページのもの）について】

①表紙

- タイトルの枠の中にいる人をもっと大きくしても良いと思う。
- タイトル枠内の「居たい」「行きたい」「やってみたい」それぞれの文字色と枠の中の人の服の色を合わせても良いと思う。
    - イラストの左の人が青（居たい）、真ん中が赤（やってみたい）、右が緑（行きたい）のイメージである。

②目次

- 「03 こどもの居場所とは」と「07 こどもの居場所づくりとは」は最後に「？」をつけたほうが良いのではないか。
- 「02 こどもの居場所」と「03 こどもの居場所とは」は同じだと思うので線を引いてつなげてはどうか。

- 目次の左半分の黒字のほうは「こども」を漢字にして、右側のほうは平仮名（こども）にしたほうが見分けやすいのではないか。
- 参加者全員）大きな項目として足したいものはない。

③教えて、イバション！その１・その２（p.2, 4）

- カラーにしたほうが良いと思う。セリフも長い文章ではなく短い文章にしたほうが良い。
- 右下の「居場所づくりの主人公は君たち！」のコマについて、登場人物の手が Good マークに見える。
- 右下の「居場所づくりの主人公は君たち！」のコマをカラーにするなどして強調したほうが良いのではないか。

④どんな居場所があるか見てみよう！

- 左右のページの間で微妙に絵がずれているのが気になる。
- 人物のイラストが小さすぎる。
- いけんぷらすのことも書いたほうがいい。真ん中にドーンと入れてもいいかもしれない。
    - こども食堂の近くでもいいと思う。
- 右下の「オンライン空間」をもうちょっと大きくしたりして分かりやすくしたほうが良い。
- VR をやっている人が小さすぎて分かりにくい。建物の外にしたほうが目立っていいかもしれない。
    - 「オンライン空間」の文字から VR をやっている人のイラストに向けて線を引いたほうが見てもらえると思う。

以上

【オンライン】２班（高校生世代４名）

１．居場所づくりの取組について

A）あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

- 以前までは、自分の声に耳を傾けず思い通りにしようとする母親と一緒に住んでいたので、意見をしっかり聞いてもらったことがない。自身が精神疾患で入院する必要がある状態になった時も、母親は「病院の診断が間違っている」と言って、無理やり自分を学校に通わせた。その時、学校やソーシャルワーカー、警察に助けを求めたが、母親の力が強すぎて自分の意見は全く反映されなかった。その後、児童相談所の介入を経て母親の元を離れたこともあり、今は児童相談所の方や看護師に自身の意見をある程度聞いてもらえていると思う。一般的にも親の力が強いことが多いため、本当に困っている子どもたちの声はほとんど反映されていないと思う。また、いじめや虐待されていることに気付けなかったり、気づいても迷惑が掛からないように黙っていたりする子が多いと思う。自分の場合は、途中でソーシャルワーカーに虐待を受けていると教えてもらい助けを求めることができたが、極めてまれなケースだと思う。意見を言えない子や虐待を受けていることを理解できない子たちの意見をどうくみ取っていくか国に考えてほしい。
- 自身は積極的に意見を伝えていくタイプであり、周りの人にも恵まれたので、自分の声や要望を聞いてもらえないというような不自由は感じていなかった。ただ、中学・高校にあがるに連れて、自分の声や要望を聞いてもらえる環境にない子や、声を上げてもどうせ聞いてもらえないと諦めてしまい自分の意見を発信しようという意欲を失っている子が周りに増えてきたと感じている。意見を伝えられている人とそうでない人の差が大きいと思う。
- 自分は意見を聞き入れられていると思っている。むしろ、大人に近づくにつれて社会から意見を求められる機会が増えていると感じているが、意見を無理やり言わされることに困っている人もいる。例えば、文化祭や委員会活動など生徒が主体で活動するものについて、先生から任されすぎて困った経験がある。
- 相手や場面によって、どれくらい聞き入れてもらえるかが変わると思う。しっかり意見を伝えたとしても、高校生なので聞き入れてもらえない場面が多い。一方で、家族には比較的聞き入れられていると思う。

B）「こどもの居場所づくりに関する指針」を知っていましたか。

- ＜４名中２名が「知っている」に挙手＞
- 地元でユースセンターをつくる活動を進めていく過程で見たことがある。また、「こども若者★いけんぷらす」のお知らせでも目にしたことがある。
- 不登校や課題を抱える児童の支援活動の立ち上げ代表として、活動に参加してくれる人を募集した際に、活動の根拠を説明するために参考にした。

C）どんな居場所がつくられると嬉しいですか。

- 一時保護所や養護施設をもっと自由な場所にしてほしい。自身が一時保護所にいた時は、スマホが使えず友達と連絡できなかったり、学校に行けなかったりした。ネットや学校を自分の居場所としているこどもたちからかえって居場所を奪っていることになると思う。本当に困っているこどもたちが助けを求められるよう、

一時保護のルールをもう少し緩和してほしい。また、18 歳以上の人や児童相談所に対応してもらえなかった人たちの受け皿となっている民間シェルターをもっと増やしてほしい。現状は社会的養護に該当するハードルが高いと感じている。親が育児に疲れた時に 1 ～ 2 日程度子供を預けられたり、虐待までは受けていなくとも家にいたくない子が短期間逃げ込めたりできるような場所を増やしてほしい。

- こどもや若者の事情によって、必要な居場所は様々だと思う。個人的には、中学生以降も行けるような児童館みたいなものができたらと思う。幼少期は気軽に訪ねて児童館の先生と話したり友達を作ったりしていたが、中学・高校生にとっては、自分より年下の子が多かったり、閉館時間が早かったりするので利用することが少なくなった。そこには、こどもに干渉しすぎず、適度な距離間でこどもの様子を見てくれる大人も必要だと思う。また、親と仲が悪いわけでなくとも反抗期などで一時的に家を離れたい人にとっては、1 日でも外泊するのはハードルが高いので、もう少し制度が柔軟になってほしい。
- 学習できる施設や環境が欲しい。勉強だけではなく、実験やスポーツなど様々なことをお金や年齢に関係なく学べるのが理想だと思っている。また、学校に行けず勉強についていけない子でも自由に学べるよう、オンラインでも実際に自習室にいるような空間があれば良いと思う。
- 民間シェルターは場合によっては、運営側が未成年者略取・誘拐罪に問われる可能性がある。こどもが民間シェルターに逃げ込んだ後に親が捜索願を出したとしても、強制的に家に戻されないよう法整備してほしい。民間シェルターにも社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などの資格保有者が常に滞在している体制にしてほしい。

D）こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、大人やこども・若者は何に気を付けると良いと思いますか。

- 干渉しすぎないことが重要だと思う。居場所があったとしても、大人に干渉されすぎると億劫に感じる。どこまで大人が干渉するべきかという線引きは難しいが、イメージとしては、普段は放任しているが、危なさそうになった時に手を差し伸べてくれる友達の家のお母さんに近い。
- 民間シェルターが閉鎖されないようにしてほしい。特に、地方の民間シェルターは採算がとれず閉鎖されることが多いので、継続して運営できるよう支援してほしい。
- こどもがどうしたいのかをしっかり聞いてもらいたい。また、こども自身は虐待を受けていることやヤングケアラーであることを認識していないという前提でこどもの話を聞いてほしい。以前、家出をして警察に保護された時に、自身が精神的な虐待を受けていると知らず「家にいるのがしんどい」と伝えたところ、家に帰されてしまった。SNS を見ていると、勇気を出して警察などに通報したのに、親の言い逃れが聞き入れられてしまって助けてもらえなかった人や、一時保護されたにもかかわらず児童相談所に説得されて家に帰らされた結果、虐待がひどくなっている人がいた。現状、親権が強すぎるせいで親の同意なしではできないことが多く、こどもの意見が尊重されていないと思う。親とこどもにそれぞれに寄り添う専門職を確保するなど、もう少しこどもに寄り添ってほしい。こどもは自分がされていることに気づけなかったり、本音を言えなかったりするので、大人は「こどもが全てを話している」という前提を持たないでほしい。また、全ての学校にソーシャルワーカーがいるわけではなく、ソーシャルワーカーとつながるためには学校の担任教師を間に挟んだりする必要があるため、すぐに自身が求める居場所を知ることができない。そのため、直接ソーシャルワーカーとつなが

る仕組みを作ったり、授業で居場所の紹介をしたりしてほしい。

- 大人の価値観や考えを押し付けないでほしい。また、大人がこどもに対して意見を募ったにも関わらず、結局実行しないというような事態がなくなってほしい。

２．広報資料の案を見て

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

【解説動画について】

- 公的機関が出している動画を自ら調べて観ることが少ない。今回の解説動画のようにショート動画ではない形式の動画が YouTube の広告などで流れてきたとしても、長く感じてしまいスキップしてしまうと思う。今の状態では、気軽に観るのは難しい。
- 自分から公的機関が出している動画を調べる人はほぼいないため、広告を出してもスキップされると思う。Spotify のように無料版ユーザーは広告をスキップすることができない仕組みにすれば、半強制的ではあるものの聞いてもらうこと自体はできるので、比較的宣伝効果が高くなると思う。
- 具体的な居場所の名前や連絡先、住所などもう少し情報を入れてほしい。加えて、外国籍のこどもでも理解できるよう簡単な日本語版や外国語版を作ってほしい。また、この動画をどこで流すのかが気になる。虐待されている子はスマホを自由に使えなかったり、そもそもスマホを持っていなかったりするので、動画が届かないかもしれない。TV で流したり学校の授業で紹介したりすると良いかもしれない。YouTube や検索サイトで「自殺」という単語を調べると相談窓口の案内が一番上に表示されるように、「虐待」や「ヤングケアラー」、「家に帰りたくない」という単語を調べるとこの動画が一番上に表示されるようにしてほしい。
- 自分が困っている状態でこの動画を観ても、公民館や相談所に行って具体的に何をしてもらえるのかが分かりづらかった。簡単な言葉や映像で説明できると良いと思う。
- 「多くのこどもにとっては学校も居場所になる」と言われた時点で過去の自分は動画を観るのをやめると思う。いじめられている子にとっては学校が居場所でないことも多いので、動画を観ても傷つくことがないよう配慮してほしい。また、全体を通して動画の内容が抽象的だと感じる。自分が家や学校に居場所がないと感じている時にこの動画を見ても、どうしたらいいのか分からない。家や学校以外の居場所を具体的に紹介してほしい。
- 動画の構成について、学校を第一の場所として紹介していたが、学校や家に居場所がない子を対象としているのであれば、民間シェルターや公的機関が実施している一時保護などをもっと強調した方が良い。また、現在、動画の長さが 2 分 20 秒とのことだが、1 分程度の動画を見慣れているこどもが多いと思うので、そこまで関心のない子が観るのは難しいかもしれない。BGM などはつけたほうが良い。
- 最後にこども家庭庁のホームページに遷移する QR コードが載っていたが、現在の動画では HP を見てみようと思わないので工夫が必要だと思う。動画の内容やメッセージは理解できるが、具体的な要素が足りないと思う。

【パンフレット（１ページのもの）について】

- チラシから堅い雰囲気が出ているとあまり見ようと思わないので、もう少し目を引くようなインパクトのあるものになった方がいい。話のネタに昇華できるくらいの方が興味を持たれると思う。載せたい情報がたくさんあるのは理解できるが文字数が多いので、時間がない中学・高校生は見ようと思わないと思う。パッと見た時に興味をそそられるようなものにすると良いと思う。
- 学校で配られたとしても、読まずに捨ててしまうと思う。薬物のパンフレットが学校で配られることがあったが、読まずに捨ててしまったと思う。また、このパンフレットを見たとしても、具体的な場所に関する情報が記載されていないので、必要な支援が届かないと思う。さらに、紙媒体で配布した場合、学校に行けていないこどもに届かない可能性があるので、デジタル化して広告などにした方が良いと思う。
- ターゲットがこども一般向けになっているが、表面の「こども・若者の居場所づくりを応援しよう」に続く文章が詰まっていると感じるので、この部分を削除するか裏面に移動するなどして、表面はマップのみにした方が見た瞬間にメッセージが伝わりやすくなると思う。また、不登校支援をメインで担うのは保護者であるため、保護者向けのポスターを病院や銀行、役場など大人がよく利用する場所に設置した方が良いと思う。

【パンフレット（20 ページのもの）について】

- 漫画について、パンフレットとして配布するより X などの SNS に投稿した方が良いと思う。実際、公安調査庁が地下鉄サリン事件やオウム真理教について簡単にまとめた投稿が数十万のインプレッション（閲覧数）を得ている。
- 漫画で解説するのは良いと思うが、小学校低学年の子が読んで内容を理解できるのか怪しい。また、スマホを持っていないことが多い小学生がどうやって居場所を求めたらよいのかがわかりづらいと思った。
- 小学生にとっては漢字が多い気がするので、簡単な漢字だけを使ったり、フリガナを付けたりした方が良い。また、学校で一人一台配布されている端末から簡単にパンフレットを見られるようになったらいいと思う。
- Ｘや Instagram など、若者がよく利用している媒体で発信できたら良いと思う。

以上

【オンライン】３班（大学生世代４名、社会人世代１名）

１．居場所づくりの取組について

A）あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

- 現在は大学３年生で、大学１年生からフリースクールのボランティアとして、こどもの声を拾う活動をしている。幼いころに不登校の経験がある。小学生のときは「周りの大人は聞いてくれない」「分かっていない」という感覚があった。現在は、学校の人間関係もうまくいっていて、家族には自分の声や要望を聞いてもらえていると思う。自分の伝える力が上がったこともあり、周りの大人にも自分の声や要望を聞いてもらえていると感じる。福祉について学ぶ大学に通っていて、大人としてこどもの声を聴く大変さを実感している。
- 現在は大学２年生。20 歳を超えて、やっとちょっと聞いてもらえるようになった感覚がある。自分に伝える力がついたし、要望が通らなかったときには環境を変えることができるようになったからだと思う。大人の聞く姿勢ができたからだとは思わない。高校生のときに不登校を経験した。「学校に行くのがつらいから通信制の高校に行きたい」「保健室に行きたい」という要望を学校や親といった大人に聞いてもらえることはなく、自分の気持ちを押し殺しながら高校に通っていた時期や、学校に行けない時期があった。大人に聞いてもらえない感覚だった。転校先の通信制高校の先生は話を聞いてくれた。話を聞いてもらったことで、伝える力が身につき、自分の声や要望を聞いてもらいやすくなった。
- 大学生になってから自分の声や要望を聞いてもらえていると感じる。現在は大学３年生で就活中。親は、就活に関する相談に乗ってくれる。アルバイトでは、大人と関わる機会があり対等に接してもらえている感覚がある。高校生のときは大人に「大学に行け」と言われて、自分の声や要望を聞いてもらっている感覚ではなかった。聞いたうえでその答えだったのかもしれないので、聞いてもらえたかと言われると難しいが、相談はできなかった。
- 自分でアクションしなければ、周りの大人に自分の声や要望は聞いてもらえないと感じる。こども家庭庁設立のために、自分は様々な意見や要望を出した。具体的には国会議員に要望を出した。話を聞いてもらえないかというアクションをこちら側からして初めて聞いてもらえるようになったと感じる。こども家庭庁設立の要望を反映してもらったので、自分の声や要望はひとつの形になったとは思う。
- 「聞いてもらえているという実感」がある/ないというよりは、「聞いてくれる大人」がいる/いないだと思う。大人はよく「忙しくて時間が無いから聞けない」と言うが、そうすると自分の声や要望を聞いてもらえる実感はない。色々な大人に声をかけると、誰かしらは聞いてくれるので、ありがたいと思う。

B）「こどもの居場所づくりに関する指針」を知っていましたか。

- 知っていた：２名
- 知らなかった：３名

〇知っていた理由・きっかけ

- 福祉について学ぶ大学に通い、福祉の勉強をずっとしているので知っていた。
- こどもの居場所についてこども家庭庁が設立時から情報を追っているので知っていた。

C）どんな居場所がつくられると嬉しいですか。

- 自分がこどもの頃にあったらよかったと思うのは、学校の教室以外の居場所。高校ではいじめにあっていて教室に行けなかった。勉強をしたかったが、クラスメイトに会いたくないので、保健室登校をしていた。しかし、保健室には具合が悪い生徒が来るので、いつまでも保健室にいるわけにもいかず、学校に行けなくなった。教室に行けないこどもがいられる場所があったら良かったと思う。大学生になってから、小学校併設の学童でアルバイトをしていた。共働き家庭が増えており、毎日のように遅い時間まで学童にいるこどもがいた。こどもにはこどもの社会があって社会生活をしている。一日を過ごして疲れたあとに、学童で親の迎えを待たなくてはならない。学童にも厳しいルールがあり、窮屈そうで疲れていた。親を待つために家の外にいなければならないこどもが家のようにだらけられる場所が必要だと思う。
- 自分らしくいられる居心地のよい居場所が必要。自分も不登校を経験した。学校に行っていない後ろめたさがあり、住んでいる地域で友達に会ってしまうのではないかと心配だった。居場所は家だった。また、学校に行っても教室に入れないときには、保健室の隣にあった相談室で過ごした。保健室の先生が唯一の相談相手で、居心地のよい居場所だった。児童クラブで勤務経験があり、その経験からもこどもたち自身が安心して、自分らしくいられる居場所が必要だと実感した。
- フリースクールで 3 年間ボランティアをしている。学校が合わないこどもは一定数いると思う。学校以外の居場所づくりが必要だと感じている。こどもが本気で遊べる、ありのままでいられる居場所を大人が増やしていけば、もっと良い縛られない社会になると思う。できれば、学校の単位が取れる場があれば良い。自分が住んでいる地域には、単位がとれるフリースクールもあれば、とれないところもある。
- 身近な人から離れて落ち着ける場がほしい。自分は親や先生ともうまくいっていない時期があったので、そういう場所があったら嬉しいと思う。
- 利用側も提供側も、だれもが安心して過ごせる居場所をつくっていきたい。最近、公園が減っていてこどもが外で遊べなくなりつつある。かといって、屋内で遊ぶとうるさいといって問題になる。居場所ができにくくなっている。誰もが安心できる空間がほしい。

２．広報資料の案を見て

【解説動画について】

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

- 直すところはない：１名
- 少し直した方がよいが、興味のあることを伝えるものになっている：２名
- 興味のあることを伝えるものになっていない：３名

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

（音声以外の点について）

- とりあえず一旦現在の動画で良いと思う。流してみて、世間から「こんな風が良い」という意見があれば聞いてみたい。

- どういった場所が居場所なのか分かりやすかったが、どうやって作っていくのかイメージがわかない。こどもだと、誰に相談すればよいか分からないと思う。
- マジョリティにフォーカスして学校や公民館といった場所を具体例として挙げるのはよいが、ヤングケアラーなどの学校に行けない、家から出られないこどもに向けて、困ったときに行ける場所（自立相談支援センターや、児童相談所の一時保護、フリースクールなど）の一覧を二次元コードで示すなど追加情報があると良い。動画で長々説明する必要はない。困っている人は意外と多くいると思う。「困ったときはここに相談してみれば」というパンフレット的なものがあれば分かりやすくなると思う。
- 音声は改良予定ということなので、その点については省く。解説動画は、いけんひろば参加前に１回と、いけんひろば当日に２回で、合計３回見たが、結局何を伝えたいのかよく分からない。一番伝えたいのは、「居場所はこういうものだから、ほしい居場所について意見をください」ということだろうと個人的には受け取ったものの、何を伝えたいのかあやふやでよく分からなかった。動画の構成は、居場所の例、居場所の定義、よりよい居場所づくりのために声を挙げようという３部構成になっていたが、最初に居場所の例が挙がるのが唐突に感じる。居場所の定義のあとに、例をあげて、改善するために意見をくださいという構成にしたほうが良い。また、居場所づくりのために声を挙げよう、意見をくださいということは分かるが、声を挙げる方法（メール、先生、親、国など）が分からなかった。大学生になれば、自分で調べたり選挙に行ったりできるが、対象年齢はもっと低いと思うので、方法を提示しないと意見は集まらないと思う。
- 解説動画は、小学校低学年も観ると思う。音声は改良予定ということなので、その点については省くが、音楽を入れても良いと思う。また、言い回しは小学生低学年に伝わるものにする必要がある。「（こども・若者の居場所とは）こども・若者の主観によって決まる」という内容があったが、小学校低学年に伝わるか疑問。また、もっと端的にしてほしい。長さは３分でもよいかもしれないが、端的に、明るくないと、こどもたちに伝わらないと感じた。

【パンフレット（１ページもの・20 ページもの）について】

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか

- 結局どこが居場所なのか、ぱっと見ても分からなかった。この資料を見てもこどもたちが「結局どこに行けばよいのか」と迷子になる。都道府県ごとに、こども食堂やフリースクールを挙げると良いと思う。
- 漫画は何歳向けか。たとえば６歳のこども向けなのであれば漢字にふりがなが必要だと思う。ターゲットを絞っているか気になって質問した。
- こども・若者向けパンフレットなので、学校に置いたり配布したりすると思うが、小学校低学年に分かるようにしないと伝わらない。表紙に「こどもの居場所づくり推進中！」と書いてあるので、居場所づくりを推進していることを伝えたいのだろうと思うが、大学生の自分が見ても何を伝えたいのか正直分からなかった。途中の漫画は、面白いが何を伝えたいのか分からない。また、文字が小さくて量が多い。こどもはこんなに読まないと思う。たとえば、こども向け歴史漫画は、文字が少なく簡略化されている。文字に対する苦手意識がある子に向けて作成するぐらいがちょうどよいと思う。また、どんな居場所をつくっているかを最も伝えたいと思うが、居場所の例が強調されずさらっと終わってしまっている。一番強調したいところはページを割い

てよいと思う。

- 「こどもの居場所づくり推進中！」と書いてあるが、「推進中」という言葉をどれくらいのこどもが理解できるか疑問に思った。「こどもの居場所　増えています」といったキャッチフレーズにしたほうが良い。言葉は簡単にしないと理解してもらえない。また、漫画を含めて 20 ページのパンフレットは、小学校高学年なら読めるかもしれないが、低学年が読めるのか疑問に思った。
- 小学校低学年が 20 ページを読むのか疑問に思った。また、最終ページにある二次元コードは、漫画の途中に置いても良いと思う。GIGA スクール構想で 1 人 1 名タブレットをもっているので、各自で読み取れると思う。工夫の余地があると思う。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

- 最近は、こどもスマホやタブレットを持っているので、SNS を活用したほうが良い。公式サイトに上げても目につかないことが多いので、SNS の活用が良いと思う。
- 広告を出すと良いと思う。「居場所がなくて困っていませんか？」と Instagram のストーリーに出てくればリンク先を見てくれると思う。現在、社会福祉協議会で実習中であり、社会福祉協議会に広報資料を置いても良いと思った。自分が居住する地域では、貧困家庭向けの学習支援がこれから開始する。広報資料は、親世代のこども・若者が見てもよいものだと思う。ひとり親家庭の団体には、市町村の場所に置くと届きやすいと思う。また、自立相談支援機関は、都道府県によって名前は違うと思うが、全国各地にあり、市や社会福祉協議会などがこども・若者を支援している。自治体や社会福祉協議会に呼びかけることで、少しでも多くのこどもを助けられると思う。
- こども・若者に届けるという意味では、SNS 広告が一番目に留まると思う。また、学校や塾などの教育機関にポスターとして貼ってもらうのも良いと思う。また、駅や電車のつり広告に掲示すると、こども・若者にとどまらず大人の目にも入り、世代間の認識の差が生まれないようにできると思う。
- 過疎地域に住んでおり、居場所といえる場所がないと感じる。「こどもの居場所づくり推進中！」とポスターを貼られても、「自分たちの街には居場所がない」「全然進んでいない」と感じるこどもがいると思うので、表記の工夫が必要。また、図書館などの公共施設に貼り、こどもをまんなかに据えた居場所づくりを社会全体で共有する機運を高めることも大切だと思う。

以上

【オンライン】４班（社会人世代５名）

１．居場所づくりの取組について

A）あなたは、社会や周りの大人に自分の声や要望を聞いてもらえているという実感がありますか。

- 声を聞いてもらえている実感はあまりない。日本は子どもの権利条約の批准も遅く、こども大綱が制定されたのも最近であることから、こどもの権利がないがしろにされている気がする。自分が住んでいる地域では、こどもや若者に対する扱いが厳しい。高齢者の意見の方が若者の意見よりも尊重されているので、自分たちの声を聞いてもらえているという実感があまりない。
- 自分の住んでいる地域でこどもの居場所づくりに取り組んでいる。こどもたちが騒いだ場所はすぐに出入り禁止になるなど、地域ではこどもたちの騒音に対して厳しい対応が取られている。こどもたちが居心地良く過ごせる場所を大人が排除していることを、こどもたち自身が感じ取っていて、こどもたちは「自分たちには居場所がない」と感じている。それは悲しいことだと思う。
- 自分の意見が反映されている実感はあまりない。自分は以前、学童保育に勤めていたが、こどもたちの遊びが制約されていたり、学校の周りに急にマンションが建設されたことで生徒数が増えて、教室が全く足りていなかったりする状況だった。また、エアコンが設置されていない教室があったり、生徒数に対して校庭が狭かったりした。近隣の図書館では、読書を目的とした利用が優先されていたため、自習がほとんど禁止されていた。これらの経験から、地域にこどもが受け入れられていないと感じる。もっとこどもたちやその支援者の要望を聞いてほしいと感じている。
- 自分の声も聞かれていないと思うし、こどもの声も同様だと思う。こどもたちの声は学童保育の職員によって市に伝えられているが、実現にはなかなか結び付いていない。例えば１日当たり学童保育に 100 人のこどもが来るのに対して、ロッカーは 60 人分しか設置されていない。そのため、１個のロッカーに複数のランドセルを横にぎゅうぎゅうに詰め込んでいる状況である。ロッカーの増設を要請したが、実現までに２年かかった。こどもたちの声を職員が拾い上げて行政に伝えても、なかなか反映されていないと感じている。
- 自分の声や要望を聞かれていると感じるときもあれば、聞かれていないと感じるときもある。市などに提案をしても、声としては聞いてもらえるものの、それが形にならない現状が続いている実感がある。一方で、声が聞かれていると感じたときは、こども食堂で活動していたときに、チームとして提案した意見を受け入れられ、市全体で話し合いの場を設けてもらったとき。
- 当初は自分の声を聞かれていないと感じていた。しかし、どのように声を発すれば聞いてもらえるかが次第に分かるようになって、最終的には実際に聞いてもらえるようになった。現在自分は地域の自治体の自立支援協議会の委員を務めている。委員は非常に対等に接してもらっている。個人が意見を発すると１対多数の構図になってしまうが、委員としては対等に意見を受け入れてもらえている。
- 自分の声が聞いてもらえていると実感しづらい。こども家庭庁の取り組みなどに参加することで、若者の意見を取り入れてもらえていると少しずつ実感している。

B）「こどもの居場所づくりに関する指針」を知っていましたか。

- （２人が「こどもの居場所づくりに関する指針」を知っていると挙手）

〇どこで見たり聞いたりしたか。

- 自分は普段こども家庭庁の新着更新を見ることが好き。こども家庭庁の政策を毎日のように見る中で知った。その中で、「こどもの居場所づくりに関する指針」が県や自治体にも発信されることを知り、嬉しかった。
- こども家庭庁のホームページを見て知った。

C）どんな居場所がつくられると嬉しいですか。

- 安全が保障され、自分が守られていると実感できる場所があると嬉しい。情報が錯綜している現代では、安全な場所かどうかを見極めることが難しい。安全に過ごせる場所は精神的な安定や社会的なつながり、自己肯定感を高めることにも繋がり、安心感を与えてくれる。そのため、誰もが安全に過ごせる場所がしっかり保障されることが望ましいと思う。振り返ると、中高一貫校に通っていたとき、自分の主張が聞き入れられていたと感じる一方で、「ここはダメだよ」という危険な状況に対するリスクも教えてもらった。そのため、学校は私にとって安心できる空間だったと思う。
- 人によっては、異性に対する苦手意識やトラウマを抱えていると思う。もし可能であれば、男女で分けられたスペースがあれば、そういう人たちにとって安心できる環境になると思う。実際、自分も小学生や中学生のときに、男子に体形のことを指摘された。その影響で、今でも中学生が近くにいると、自分の陰口を言われているのではないかと思ってしまう。また、家庭の事情が大変なときには、本人に説明して同意を得てから、しかるべき機関に連絡するなどの対応をしてくれる大人がいると、よりこどもたちが安心できるのではないかと思った。自分自身複雑な家庭で育って、警察や児童相談所とのかかわりで嫌だと思った対応があった。本人の意思を尊重して、相談する場所などを連携してもらえると嬉しい。
- こどもに関して言えば、「こどもたちの権利が保障されている場所」、「自分の意志が尊重される場所」が絶対条件になると思う。自分自身が欲しい場所としては、今住んでいる町がとても小さくて、若者がほとんどいなく、同級生にも会うことができないため、オンラインのイベントのようにいつでも参加できて、いつ来てもよいという柔軟性が保障されている場所があると良いと感じる。
- こどものときの視点で言うと、学校はすごく楽しい空間だった。しかし、学校全体という大きな括りでは、どこのグループに所属すればよいかが流動的であったため、もう少し小さい学童のような居場所があると良かった。小学校のときは学童の存在を知らなかった。
- 家庭以外の居場所だと、学校がいかにこどもたちの居場所になれるのかが大きいと思う。
- 現在自分は３社目の会社に勤務しているが、ゆくゆくは良い環境にたどり着けると良いと感じている。

D）こども・若者が本当に欲しいと思える居場所を実現させていくために、大人やこども・若者は何に気を付けると良いと思いますか。

- 自分が教育福祉のアルバイトをしていたときのバイト先の人が、「相手の話を聞いているよ」としっかり伝えてから信頼関係を構築して、そこから「あなたはどう思っているか」という風に対話を深めていた。大人だからといって自分の意見を押し付けるのではなく、こどもの意見を立ち止まって聞く姿勢を大人がとるべきだと思う。年齢に関係なく、その点には気を付けるようにしている。

- 大人が気を付けるべき点として、こどもや若者の意見をしっかりと受け止めるためには、ときにはカウンセラーのような専門的な仕事の人が対応する必要があると思っている。自分が小学生のときの先生は根性論を押し付けるタイプの人で、相談しても「やる気が足りない」と返されて、意見を聞いてもらえずに苦しかった。例えば、こどもや若者から相談を受けてどう答えたらよいか分からないときは、専門家や適した大人に必要なときにつなげるべきだと思う。

２．広報資料の案を見て

【解説動画について】

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

- 音声が遠く感じてしまい、無機質でまるで違う空間にいるような感覚になる。こどもたちはデジタルの空間に慣れているので違和感は覚えないかもしれないが、自分は存在しないものとやり取りをしているような感覚になった。
- 声が人工的な点が気になった。また、ターゲットが誰なのかが不明瞭で違和感を覚えた。こどもと大人の視点が入り混じっている印象だった。あたかもこどもたちの意見を受け入れる雰囲気を出していたが、実際に受け入れてくれるのかどうか疑問に思った。
- 伝えたいことは理解できるが対象が散らかっている印象を受けた。

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

- サンプルだからかもしれないが、AI ボイスが気になった。居場所についての意見をこどもからくみ取るという趣旨だと思うが、意見をくみ取る先が AI ボイスだと親しみを感じにくい気がした。相談する相手の人たちが見えるように人間の声を使った方が良いと思った。具体的には、棒読みよりは「君の意見を待っているよ」と受け止めるような温かみが出ると良いと思った。
- 内容に関して、どの年齢を対象にしているかが分かりづらいと感じた。例えば学校のパートの「学校は多くの人にとっての居場所だよね」というフレーズは、不登校の学生などが多い現状では疎外感を与えてしまうと思った。また、公民館についての説明がないため、どのような場所かについてもう少し詳しく説明すると良いと思う。公民館は「年上の人が集まる場所」と思っているこどもが多い気がするので、「誰でも集える場所」という説明を加えると良いかもしれない。
- 「イバション」というキャラクターがもっと個性を持っていると良い。イバションは今のところ一匹しかいないようだが、「イバション２」のようにそれぞれ個性があるイバションがいると良いと思った。
- 全体を通して、「こども」の居場所づくりがメインだと思うが、「こども若者」の居場所づくりを推進しようというように、「若者」が含まれている場合と含まれていない場合があるので、対象を明確化するべきだと思う。キャラクターの年代を明確にしても面白いと思う。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

- 首都圏では渋谷の大画面で動画を流すことなどは考えられると思うが、自分が住んでいる地方では小さくテレビ画面に流すなどの方法が適していると思う。例えば AC ジャパンのようにユニークで影響力のある CM

をこども家庭庁が製作して放映した場合、「私には居場所がないのに、居場所をつくらなくちゃいけないの」と焦燥感を感じる人もいるのではないかと思う。不登校や携帯を持っていないこども、ヤングケアラーで時間がないこどもなどが特にそのように感じるかもしれない。このようなこどもたちの視点を考慮するためには、こども視点で動画をどう感じるかについて動画作成前に調査するべきだったと思う。

【パンフレット（１ページのもの）について】

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

- パンフレットを見て２つの点が気になった。１点目は、青い建物に書いてある「公民館」という文字が見えづらい点。左の絵は人が混雑しているイメージでごちゃごちゃして見える。また、こどもの居場所づくりが進んでいるのは分かるが、自分にとってどんな利益があるのかが分かりづらいと感じた。パンフレットの目的を「自分の地域にも居場所があるし、居場所はつくれる」という形で、もう少し明確にした方が良いと思う。
- 「こども・若者の居場所づくりを応援しよう！」の下の一文が長すぎると思う。もう少し見やすくするための工夫ができそうだと思った。
- １ページのパンフレットだけだと、学校に配ったり市役所の広報誌に挟んだりするには対象が広すぎると思う。社会の授業で「町にある居場所を見つける町探検に行こう」などをテーマに授業を行うとこどもたちもパンフレットの内容を落とし込めると思う。
- パンフレットを受け取ったときに「こどもの居場所づくり」がどのようにこどもたちに受け止められるのかと思った。「居場所づくり」というのがそもそも大人目線の書きぶりで、大人が推進しているような制度に見えるのが気になる。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

- パンフレットは貼るだけではなく、授業で取り上げることが必要だと思う。学生時代を振り返ると、学校の廊下のポスターやパンフレットを自分ごととしてみた経験はない。
- YouTuber や TikToker に協力してもらうと良いと思う。以前こども家庭庁が QuizKnock とコラボしていたと認識している。QuizKnock を知ってから家で勉強するようになったというこどもたちもいて、大きな影響があったと感じる。有名人とコラボした動画の公開とパンフレットの発送日を全国一律にすることで、「学校でもらったパンフレットを有名人が紹介している」という風に良い相乗効果になると思った。

【パンフレット（20 ページのもの）について】

A）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものになっていますか。

- ボリュームが多いため、小学生は理解をしながら読まないと難しいかもしれない。一コマ当たりの情報量や文字数が多く、一生けんめい読まないといけない印象を受けた。また、「居場所をつくらないといけない」という圧力を感じるので、居場所をつくるのが難しいこどもにとっては心理的負担になると思った。
- 特に目を引いたのは、４ページ目の「居場所づくりの主人公は君たち！」という部分。大人が居場所づくりをサポートすることは伝わるが、「居場所を僕たちがつくらなくちゃいけないんだ」とこどもたちはプレッシャーに感じてしまうかもしれない。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

- 20 ページもあると市役所に置くしかないのかもしれない。しかし、市役所に置いたとしても、大人たちが 20 ページも読み切れるかという点は心配に感じた。

【広報資料全般について】

B）皆さんが知りたいこと、興味のあることを伝えるものにするためには、どうすれば良いと思いますか。

- パンフレットと動画のどちらも抽象度が高いと感じた。また、内容が東京に偏っている印象がある。広報資料の内容を伝えるためには、学校教育を活用することが有効だと思う。具体的には、学習指導要領に広報資料を詰め込んで、グループワークを通して居場所に関して議論を行うことで、居場所づくりがどう進んでいるかをこどもたち自身が理解しやすくなると思う。

C）広報資料をどのように活用すると、こども・若者の目にとまりやすいと思いますか。

- 若者世代はインターネットを活用しているのでインターネットを活用すると良いと思う。こども家庭庁では X や Instagram などの広報媒体があり、他の省庁も SNS でバズる投稿をしている。具体的には、こども家庭庁が「こどもまんなかアクション」で発信しているような具体的な居場所づくりの取り組みや実例を、メディアと協力しながら全国的に発信していくと良いと思う。人が集いやすい身近な施設だとコンビニが挙げられると思うが、コンビニの活用は具体的に思い浮かんでいない。地域での居場所づくりに関するチラシを置いてもらうなど小さいところから始められると思っている。
- こどもたちはみんな YouTube を見ているので、こどもたちに人気のある YouTuber に宣伝してもらうのが良いと思う。前回の都知事選で SNS を活用して若者からの票を獲得した候補者もいたので、YouTube の活用が効果的だと思う。
- 図書館やショッピングセンターなどであれば休日や放課後にも多くの人が訪れるので活用すると良いと思う。ショッピングセンターの電子広告で広報動画を流すなどの方法が良いと思う。

以上

参加者アンケートで貰った意見

〇いけんひろば当日に言い足りなかったこと

- 大人がこども・若者に接するときに心がけることとして、私は「ナナメの関係」を心がけています。両親や教師といった「タテの関係」、同級生・部活仲間といった「ヨコの関係」ではなく、こども・若者の意見を受け止めてくれる第三者の大人として「ナナメの関係」を居場所づくりに反映してほしいです。
- もっとこども家庭庁の取り組みやいけんひろばの活動を広めて、多くの人が意見を発することができるようにしたい。せっかく意見を直接伝えられる場をこうやって用意してくださっているのに、知名度が低くてもったいない。
- 「広報資料はどうしたら目にとまりやすいか」という視点だけでなく、「どのように活用したら意見を集めやすいか」という視点も追加したほうがいいと思った。

以上